

道史編さん準備会産業・経済ワーキング開催結果概要

日 時 平成30年3月12日（月）15:00～17:00

場 所 ホテルポールスター札幌3階「ハーモニー」

参加者 坂下教授、奥田名誉教授、柿澤教授、宮澤教授、満菌准教授、
板垣准教授、市川教授、佐藤教授、東山准教授
鶴原首席文書専門員、中谷主幹

1 部会長あいさつ（坂下委員）

- ・産業別に分け、それぞれの専門分野で分業する体制で臨む。
- ・産業・経済編は、資料編の最初の刊行（2022年度末）
- ・やみくもに資料収集するのではなく、通史編の枠組みに沿ったものになる。

2 全委員から自己紹介

- ・各所属、研究テーマ等（略）

3 産業・経済部会の扱う範囲及び追加委員について

- ・通史編を展望しながら資料編を作っていくために、「新北海道史」の構成を分析（奥田委員）。

第1章～3部会混在、第2章～政治・行政部会、第3章～産業・経済部会

第4章～総合開発計画には、経済開発と、政治・行政的な過程の2側面がある。

第5章～基本的に産業・経済部会、第6章～産業・経済部会

第7章～労働問題は、基本的には産業・経済部会で扱うことになる。

- ・第2回準備会の資料3「資料編の仕分け」について説明
- ・戦後からを対象とするが、場合によっては遡る。例えば引揚者の入植や電力は、戦前戦中と密接に関係し切り離せない。
- ・分担について、奥田委員による「道史編纂委員会産業経済部会役割分担（たたき台）」により検討。
- ・地域開発の担当として北海学園大学小田名誉教授、エネルギー担当として北海学園大学小坂教授に、それぞれ奥田委員から打診済み。
- ・経済基盤（道路・港湾・空港）は、運輸交通と併せ市川委員が担当することです承。
- ・鉱業（石炭、非鉄金属）及び情報・通信は、工業と併せ板垣委員が担当することです承。
- ・労働は了解が得られれば北大教育学部上原教授、あるいは奥田委員の可能性もあるということで、奥田委員に一任。
- ・財政は基本的に政治・行政で扱うが、経済政策に関わる財政は含まれる。
- ・石炭は、エネルギーや労働の側面もあるが、例えば「エネルギー」（小坂先生予定）の扱う範囲を石炭以外とし、また炭鉱の労働問題は「鉱業」には含めないなど、今後調整する。
- ・何度か研究会を重ね、議論の中で必要な分野が別途出てくれば追加する。
- ・調査研究協力員も特別職非常勤の学識者であり、大学院生は含まれない。ままとまっ

た仕事を大学院生に頼む場合も、ハローワークを通じなければならない。

- ・情報・通信で1項としているが、工業に含める可能性もある。
- ・産業と環境とは関連が深く、例えば林業施策の中で環境まで触れざるを得ない。社会文化小部会と重なった場合は調整になるが、多分あまり重ならないのではないか。

4 解説について

- ・今後の検討になるが、通史編の助走となるよう解題をしっかりと書き、通史編でそれをふくらませるイメージ。
- ・環境問題と切り離された産業はないため、「社会・文化」で扱う環境問題とは別に各産業の中で環境の問題も扱うことになる見込み。だぶった場合は調整する。
- ・道の産業施策を紹介することが目的ではなく、全体の目標は産業経済の実態を明らかにすることにある。施策の変遷が重要であることは事実だが、そのウェイトは各先生の判断による。

5 調査について

- ・資料の目録づくりは、分野によってやり方も異なる。作っても後のために残せる。
- ・道庁の現用文書調査は、どういった文書が必要なのかを出してもらい、事務局でそれを扱っていそうな課を特定し、調査依頼していくことになる。
- ・調査研究の成果は HP に載せる電子媒体の研究紀要にまずは発表してもらい、その後に大学の論集などに使えることにする。資料所蔵者の了解を得てもだめかどうかは今後検討。
- ・調査先が想定されたら事務局へ言って欲しい。

6 7月の第1部会に向けて

- ・それぞれで構想を練っておく。どういう形で考えていて、どのようにまとめていくか、それに関わる資料があるか、ありそうだ、探してみたい…等。
- ・第1回部会でそれを元に議論し、柱建てをしていく。
- ・5月末～6月初旬頃、日程調整

以上